

「自分で探して歩きます」と言われるのが、歩き旅では一番です。そんな方には、この案内文は不要ですのでパスして下さい。この案内文は「いいところある？」と言われる二番の人のための「お節介な案内」です。色付きの地図と、同封した金沢市作成の「古図めぐり」も見ながら気楽にお読みください。

○ 1周10キロの金沢の町

金沢の町は、南北3キロ・東西2キロ程度なのでぐるーと1周しても10キロ。ゆっくり歩いても半日もあれば十分だ。これを2日間かけて歩くのだから楽勝だ。1本の街道筋を歩くのなら時間もかからないが、町は筋ではなく平面の世界、あっちへ行ったりこちらへ戻ったり、路地で迷ったり、時には立ち止まって見入ってしまった。次に行くのが目的ではなく、その場所を楽しむのが歩き旅だ。

1日目 城の西側

① 芳齋小学校 付近

左の図面が古図を拡大したもの。右が同じ地域の現在の姿だ。



道路の形は殆ど変わっていないのが凄い。100年以上のそのままだ。
それを教えてくれるのがこの古図で、また、この古地図の精度がいかに素晴らしいのも教えてくれる。

専光寺・正福寺の位置は変わっていない。水路の流れも変わっていない。
変わったのは中身で、中央の武家屋敷は、芳齋小学校・白銀幼稚園・パークサイド玉川マンションに変わっている。また、町組の道が路面電車が通れる程の広い道路になった。武士達が歩いた細い道をその通り歩けば、町の姿が浮かんでくる。

② 玉川公園 付近

公園の東側には、水路と土塁（惣構）があった。戦国時代の終りに城の防御帯として造られた惣構（そうがまえ）は二重に造られ、ここは外側部分。敵の侵入を防ぐものだから位置の順序は、道路→水路→土塁→城になっている。江戸時代に200年も残った惣構はどんな姿になっているのか

③ 武家屋敷

「古図めぐり」では「野村」家が現存するとある。古図にも「野村」がある。
この付近は武家屋敷が期待出来そうな区域だ。東の水路と西の水路があり、それを結ぶ道が整然とある。この地域はお城に近い中堅の武士達のマイホームタウン。

④ にし茶屋街

犀川大橋を渡って北側にあるのが、お城公認の遊び場「茶屋」の立ち並ぶ街だ。
東の元路面電车道にあるお店に注目。この古地図でお世話になった「諸江屋」と、屋根が特徴の「森紙店」。諸江屋では「塩どら焼」を食べながら、本物の包装紙を見て堪能して下さい。

⑤ 寺町寺院

金沢には寺院を集めたところが「石引」「東山」、そしてこの「寺町」の3か所。
古地図ではその寺院の数が半端ではない。今もこの状態だったとしたら凄い。

⑥ 水溜町

桜橋を渡って、次の「新堅町小学校」の手前細道を角を左手に曲がる。
金沢市が「こまちなみ保存地区」に指定した町並み。期待しよう。

⑦ 里見町

町屋が通りに面してあり、その奥に武家屋敷、そして水路が流れる。大通りからも離れている。里見町の由来の家が「里見」の屋敷も古図にある。今も家の表札に「里見」が見つけられるかも。

以上が1日目の城の西側を探索した。

時間があれば、兼六園や金沢城跡を観光する。なければ、次の朝にする。
帰る道筋は、城の西側の華やかな電車道でもいいし、その東側の「尾上神社」もある「あくまで裏道」でもいいだろう。

(兼六園・金沢城跡)

両者とも開園時間は朝7時～夕方6時まで。中の施設は朝9時～夕方4時まで。
兼六園の入場料310円だが65才以上は無料、金沢城一帯は無料だが、一部の施設は有料のところもある。

2日目 城の東側

昨日、兼六園や金沢城を見ていない人は2日目に観光する。

① 石引道

兼六園の南端から南東に向かっている直線の道路が、江戸初期に造った「石引道」
この道の東側に流れているのが「辰巳用水」。城から辰巳の方向11キロ先の犀川から引き入れた用水だ。兼六園やお城や昨日通った武家屋敷にも流れる。道の西側にある区域を覗いてみよう。

② 石引寺院

圧倒的な敷地を持つ3つの寺院「天徳院」「如来院」「経玉寺」

③ 天神通り

3寺院の北側にある大通りを北に行く。

宝円寺の北側にある1本通った町屋の通りが天神通りだ。東の突き当たりに天神社があり、通りを行きかう下町の姿が想像できる。浅野川大橋まで2キロ近くあるが、途中の宝円寺やその北側あたりの寺院や坂道もマークを入れた。

④ 御徒町（おかちまち）

ここも「こまちなみ保存地区」のひとつ。「御徒」とは歩く武士集団の意味。

⑤ ひがし茶屋街

昨日の「にし茶屋街」と同じ、お城公認の遊び場。公認されたのは文化の頃、江戸時代華やかな頃です。お寺と茶屋街はセットものでしょうか。

⑥ 東山寺院

寺町寺院も凄いがここはもうひとつ上に行く。古図では入り乱れている。東西の道はあるが南北の道はない。迷ってしまいそうなので、用意したコンパスを使う。

⑦ 主計町

お城の公認ではない茶屋街。浅野川大橋を渡る時右側に家並みが見えそうだ。

⑧ 新町・母衣町

大通りと浅野川に囲まれた昔ながらの街並み。

南側の電车道は、福井から富山に繋がる旧北国街道、城の大手門側にもなり当時の金沢の中心地。

その北側の武家の町並は、大きな武家屋敷がないのが特徴的だ。城の西側・南側の大きな武家屋敷は、その大きさをゆえに、学校や公共施設に変わった所が多いがここは変化が少なそうだ。

⑨ 本願寺

古地図では、「東末寺」「西末寺」と書かれている。今の「東本願寺」「西本願寺」。北陸は浄土真宗の国。本願寺のあった所を追いだしてお城にしたりと、全く大阪城と同じ話だ。3つのどこの寺院群にも離れたこの地に移住させるほど浄土真宗を恐れさせた証拠だろうか。

これで2日目も終了する。目の前に金沢駅がある。

古地図で見る金沢の町でしたが、当日はどんな町が現れるのか楽しみだ。

100年残った町並のなかには、100年残った金沢の文化がある。培ってきた物もあり人々もいる。いい「歩き旅」でありますように。